



◆当面する重点作業について

1. モモハモグリガや果実腐敗病等、病害虫の越冬量を少なくするため園内の清掃を行う。
落葉は集め焼却するか、土中に埋める。落果した果実は、土中に埋める。
2. 土作り・基肥の施用を行う。
3. せん孔細菌病の発生が特に発生が多かった園は、**ボルドー液散布は4回実施する。**
前回のもも・ネクタリン情報を参照する。
強風降雨(台風)による落葉痕からの感染が多いので、落葉した後に散布を行う。
なお、各地で農薬の飛散による苦情が寄せられます。薬剤散布には十分ご注意ください。
農薬散布を行う際は、風の弱い時に、風向きに気を付けて散布しましょう。
散布の際は周囲の人・家・車等にご注意ください。
住民等へ周知するなど周辺環境への配慮にも心がけましょう。

◆基肥の施用について

1. 施用時期・・・10月下旬～11月初旬
※施用時期が遅れると、生理落果・核割れ・徒長・遅伸びにつながる。
2. 施用資材及び施用量
 - ①グリーン長野果樹専用有機入り72 ⇒ 10a当り4袋
 - ②果樹の力 ⇒ 10a当り2袋
3. 留意事項
 - ①徒長枝の多い若木や樹勢の強い樹は、グリーン長野果樹専用を減らすか施用はしない。
また、落葉が長引き一斉でない樹も施用量を減らす。
 - ②施肥後は軽く中耕する。(軽くとは5～6cmの深さ)
※草生栽培園は中耕しなくても孔隙があり、肥効が高く出る。
 - ③堆肥等を使用する場合は、窒素分量を計算し、グリーン長野果樹専用の施用量を減らす。
 - ④ネクタリンは強めの樹勢を維持したいので、グリーン長野果樹専用有機入り72を2割(10a当1袋)程度多めに施用する。
 - ⑤マンガン欠乏(トラ葉)の発生園では基肥に硫酸マンガン10a当り10kgを施用する。
 - ⑥ホウ素欠乏園では、硼砂を1樹当り200g施用する。

《栽培に関する問合せ》

寺澤 (篠ノ井西部・信田) : 080-1188-5229 / 外谷 (篠ノ井東部) : 080-8048-6602

松橋 (松代) : 090-4816-6297 / 佐藤 (情報担当・川中島) : 090-7179-9866

根津 (更北) 080-1203-8576 / 松澤 (若穂) 080-1191-5166

吉澤 (全域・編集担当) : 090-2543-0365 / 営農販売部 (本所) : 292-0930

○果樹のアドバイザー (流通センター長兼務)

※センター繁忙期になるため、電話をとれない場合がありますが、ご了承下さい。

伊藤 (篠ノ井東部) 080-2239-6816 / 松坂 (篠ノ井西部) 080-1188-4131

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所 / 営農販売部 (本所) : 292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部 / 農業資材課 : 299-3311